

開校 52 年目を迎えました

◆ 10月2日は、モスクワ日本人学校の52回目の開校記念日です。全校朝会では、伝統を語り継いでいくことの意味をリレー競争に例えて話しました。これを機に、それぞれに「自分にとってのモス日」について考えてみてほしいと思います。

◆ 「しらかば第8号創立十周年記念誌（昭和52年度）」に載っている、現在の校舎に移る前の一コマです。

※敬称略

（元教頭 木谷 二郎）

※昭和47年4月～52年3月派遣

◆ …夏休みに、先生方が力を合わせて、ホールにパネルを組み合わせて、素人大工で職員室をつくり、今まで職員室だったところを生徒の教室にして授業をしました。それでも教室が足りず、三年目には、ホールに図書やテレビを移して、ホールでまで授業をしました。三年間にドロボー事件が六回もあり、毎回頭を痛めました。職員室を荒されたときはほんとうにひどく、足の踏み入れる場も

ないくらい、先生方の机の引き出しから、戸棚から物を全部投げ出してあったり、謄写インクをひっくり返してあったりで、整理に大変でした。

（元生徒 鈴木 泉）

◆ モスクワ日本人学校が創立されたのは、私がモスクワに暮らすようになって一年後のことでした。最初、私はソ連人の小学校に通っていましたが、数か月でやめて、日本から持ってきた数冊の参考書をたよりに、自宅で独学していました。でも独学と言っても当時小学校三年生だった私には無理な話で、どんどん遅れていく勉強に幼いながら焦りを感じ、どうすることもできずに毎日が過ぎていきました。

ですから、日本から先生が赴任され、日本人学校創設が決まった時、私は嬉しくてたまりませんでした。当時生徒数は二十人足らず、外人アパートの中の先生御夫妻の住居のうち二部屋を教室にあてるという状態で、およそ学校と言えるようなもの

ではありませんでした。開校式の日、いすと机だけの殺風景な教室にせめて国旗を飾ろうと、音楽会のポスターの裏に貴重なマジックインキで日の丸を描いたことを今でも覚えています。教材も少なく、各自が日本から持ってきた教科書を次々に回して使うということもありました。…

（元生徒 木村 洋）

◆ 私と兄は、日本人学校の開校一ヶ月後に入学しました。…クラスは、高学年と低学年に分かれておりましたが、なにぶんアパートなのでちょっと大きな声を出せば筒抜けの状態でした。学習用具もほとんどなく、教科書もみんなが、各自日本から持ってきたバラバラの教科書を使っていました。いろいろ不自由な思いをしましたが、みんな一致団結してちよつとでも快適な学校生活にしようと、いろいろ工夫をこらしていました。それに時間割も決まっておらず、朝みんな何をするか決めるのでした。天気の良い日など、体育の時間だと称してアパートの階段を駆け上ったり、冬には広場でスケートをしたりしました。

同居校との交流

◆ 同じ校舎で学ぶ子どもたちが仲良くなり、互いに異文化理解を深めることができるよう、今、イタリア校と一緒に交流準備を進めています。9月19日には、英語、算数・数学、体育、音楽の担当者が集まり、アイデアを出し合いました。日常的に国際交流ができるという格好の環境を生かし、無理のない形で交流を続けていきたいと考えています。最近、イタリア校の子どもたちや保護者の皆さんと挨拶を交わす機会が増えました。大切にしたい交流です。